

No. 27

発行 20.11.5

JR東労組 業務部

中6号 2020年度年末手当等に関する申し入れ団体交渉を行う!①

-第1項一

■ 景気動向について

■景気が回復基調にある。

DI(景気ウォッチャー調査)も 2018 年4月以来の 数値に回復しており、中小企業も同様である。原油 価格も横ばいの見通しも出ており動力費にも効いてく る。 **景気が上向いてくる局面であり、追い風だ。** 景気 を前進させるためにも支払いを行うべきだ。

■ 会社の業績について

■直近の業績だけでなく、コスト、収入の状況、今後の動向を 見て検討するのか。

組

- ■業績予測を見ると、2020 年度末において定期が85%、定 期外の在来関東が80%、新幹線55%となっている。来年度 以降は定期収入については85%。在来関東85%、新幹線が 80%ということだが、ワクチンが出来るという前提なのか。
- ■第2四半期計画において、鉄道収入が91億円プラス になっている。要因は何か。
- ■職場は赤字の中で、どう黒字に向かうか努力している。 職場は、自分たちが頑張ってきたからと考えている。
- この間の期末手当の支払いについて
 - ■2016 年度から期末手当は据え置きになっている。 増額を求める組合に対して、会社は「固定費の割合、 収入やコストの状況、今後の動向」を見ると回答し、交渉 では、「公共性」と回答された。固定費の高さを問題にし て、期末手当を据え置いてきたのではないか。
- 株主配当について
 - ■株主配当だが、中間 50 円、年末 50 円で、年間 100 円となり、総額 380 億円になるのか。
 - ■赤字における株主配当の考え方を伺いたい。

、会社は職場の声に応えるべきだ!

■営業利益が出ている以上、利益還元としても株 主だけでなく、社員にも還元すべきだ。その還元の 仕方は様々あるが年末手当もその一つである。

申6号交涉

■景況感は回復してきている。

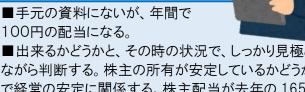
しかし、DI横ばいを示す 50 に到達していない。新 型コロナウイルスが世界的に感染が拡大するかもし れず、産油国で拡大すれば供給不安も出かねな い。日本の景気の他に、世界情勢などもみて判断し ていくことになる。

- ■今までのそのような部分を踏まえてであ り、スタンスは変わっていない。
- **■あくまでも予測である。**回復見込みとして 出している。
- ■利益も予測値より上がっている。 良いか悪いかを評価するものではない。
- ■努力は会社としても受け止めて いる。感謝を申し上げたい。

■社員個々のベースは上が っている。決して率が同じだ から、据え置いているという 認識はない。

組合員はそのように 実感しているのか!?

- ■手元の資料にないが、年間で
- ■出来るかどうかと、その時の状況で、しっかり見極め ながら判断する。株主の所有が安定しているかどうか で経営の安定に関係する。株主配当が去年の 165 円から 100 円なので、かなり減配になっている。
- ■社員のみなさんにお支払いする賃金は様々ある。 賃金だけではないが、基本としては違わない。



営業利益を出したのは職場の努力だ! その②